vol.16 株式会社ごんきや・代表取締役社長　佐藤知樹氏

重要なのは、葬儀のかたちより「葬儀の本質」を残すことです

業界を牽引する企業のトップに、事業成長の裏側やビジネスのポリシー、業界への思いなどを聞く「TOP Point of View ～供養業界トップインタビュー～」。今回は、創業200年を迎えた今もなお、「変わらないために変わる」経営を掲げて成長を続ける株式会社ごんきや 代表取締役社長 佐藤知樹氏にお話を伺った。

株式会社ごんきやの設立は1815年（文化12年）、江戸時代に遡る。当時33歳の初代・佐藤権吉が塩釜に開いた荒物と装具雑貨の店を二代目、三代目が引き継ぎ、四代目が家業を継承した明治32年に葬祭業を本業とした。長い歴史を持つ葬儀会社は少なくないが、いずれも葬儀とはまったく違う業態からのスタートであり、200年の長きにわたって葬儀に関わり続けてきた同社は稀有な存在だ。

供養業界は、長い歴史を誇る同社をして「過去に例を見ない」と言わしめる変化のなかにいる。故人を思い、祈ること。遺族が故人や参列者に、また参列者が故人や遺族に、感謝を伝えること。変わりゆく時代のなかでそうした「葬儀の本質」を残すには、従来の葬儀のかたちにとらわれないことが重要だと佐藤社長は話す。本質を守り、葬儀社として適正な利益を得るために仕掛けるさまざまな改革と今後の展望は、業界の未来を考えるすべての関係者にとって大きなヒントになることだろう。

（インタビュー記事、P20へ続く）